

1．流域の自然状況

1 - 1 河川・流域の概要

櫛田川は、その源を三重県飯南郡飯高町と奈良県吉野郡東吉野村の県境に位置する高見山（標高 1,249m）に発し、蓮川等の支川を合わせながら東流し伊勢平野に出て佐奈川を合わせた後、松阪市法田で菰川を分派し流路を北に転じ伊勢湾に注いでいる。

櫛田川流域は、三重県中部に位置し、松阪市をはじめとする 1 市 4 町 1 村からなり流域面積 436km²、幹川流路延長 87 kmをもち、1 次支川の佐奈川、蓮川や下流部で分派する菰川等、総計 68 の法河川を有している。

櫛田川流域では、工業団地が整備され、企業誘致が進められるなど、この地域における社会・経済・文化の基盤をなしているとともに、香肌峡県立自然公園及び室生赤目青山国定公園に指定されている他、国指定の史跡である斎宮跡が存在する等、豊かな自然環境を有し、歴史・文化を伝える香り高き清流として親しまれている。

山間渓谷部を流れる上流部は、1,000m 級の山々が連なる山間地域で、スギ、ヒノキの人工林の間にブナの原生林やモミ、シデなどの樹林が残存し、山間の清流にすむ多様な生物が見られる。中流部は、大小の屈曲を繰り返して河岸段丘の谷間を流れ、至る所で岩盤が露出するとともに、砂州や瀬・淵が連続し、香肌峡と呼ばれる景勝地を構成している。下流部は、伊勢平野の南端を流れ、沿川には松阪市の市街地や田園地帯が広がっている。

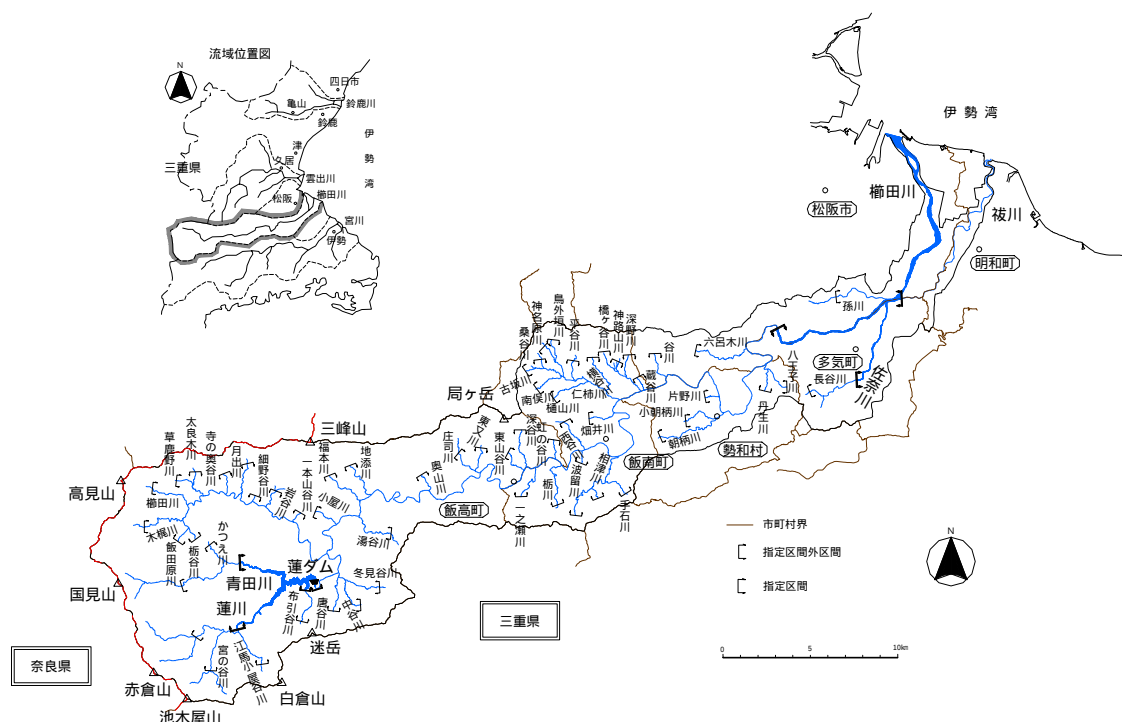


図 1 - 1 櫛田川流域図

1 - 2 地 形

櫛田川流域は高見山^{たかみ}から伊勢湾まで、延長87kmに及ぶ細長い羽状の流域をもち、地形的には山地部、河岸段丘及び三角州（扇状地）に分けることができる。櫛田川本川上流部は大小の蛇行を示しかつ溪谷がよく発達し、幼年期から壮年期の急峻な地形を示す。

中流部も大小の蛇行を繰り返し、局部的に狭小な段丘的平坦地が見られる。本川の北側は三峰山^{みつみね}（1,235m）局ヶ岳^{つぼねがたけ}（1,029m）等があり、これらを連ねる東西の線から急崖となっている。櫛田川本川下流部は両郡橋^{りょうぐん}を過ぎて急に平野部に入り、北流して扇状地及び三角州を形成する。

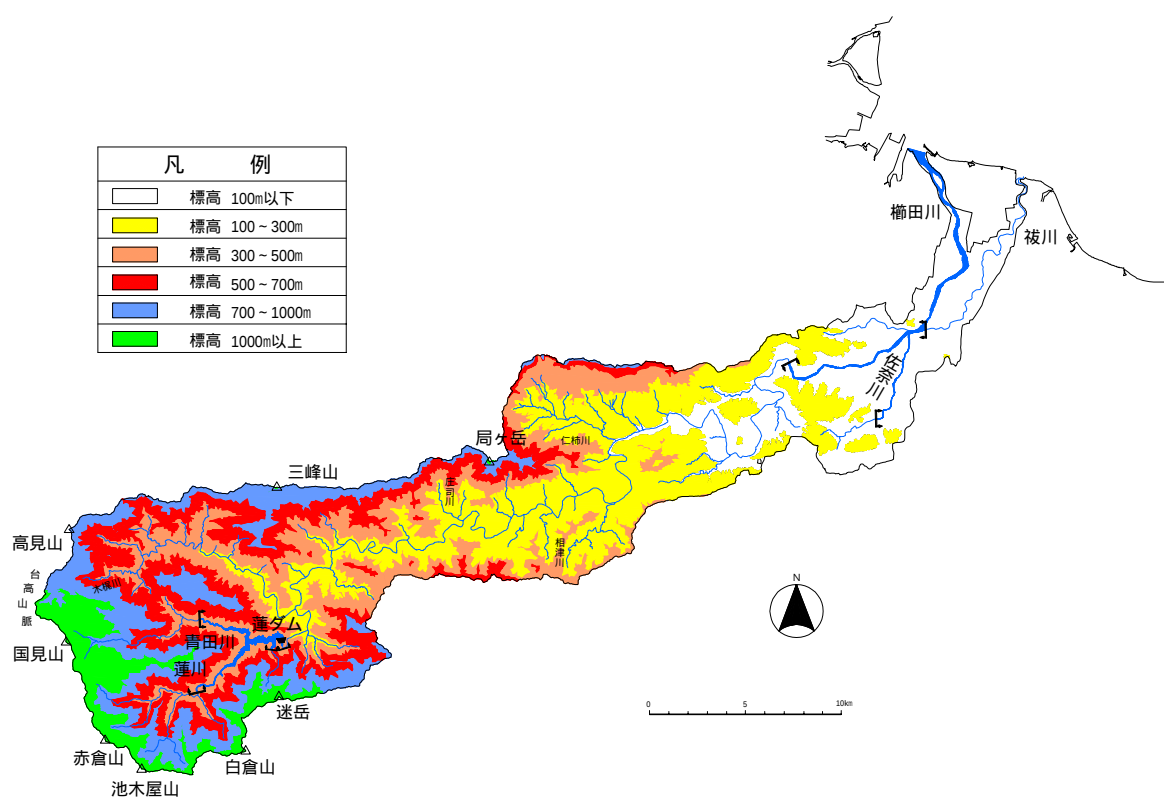


図 1 - 2 櫛田川流域地形図

1 - 3 地 質

櫛田川流域の地質は、流域内を東西に中央構造線が走り、この線に沿って幅 100 ~ 1,000m の圧砕岩(ミロナイト)が直線上に分布している。この線を境に南北方向に二分され、南側(櫛田川本川上流部)は黒色変岩・砂質変岩・緑色変岩、北側(櫛田川本川中・下流部)は花崗岩を主体とするまったく異なった地質になっている。

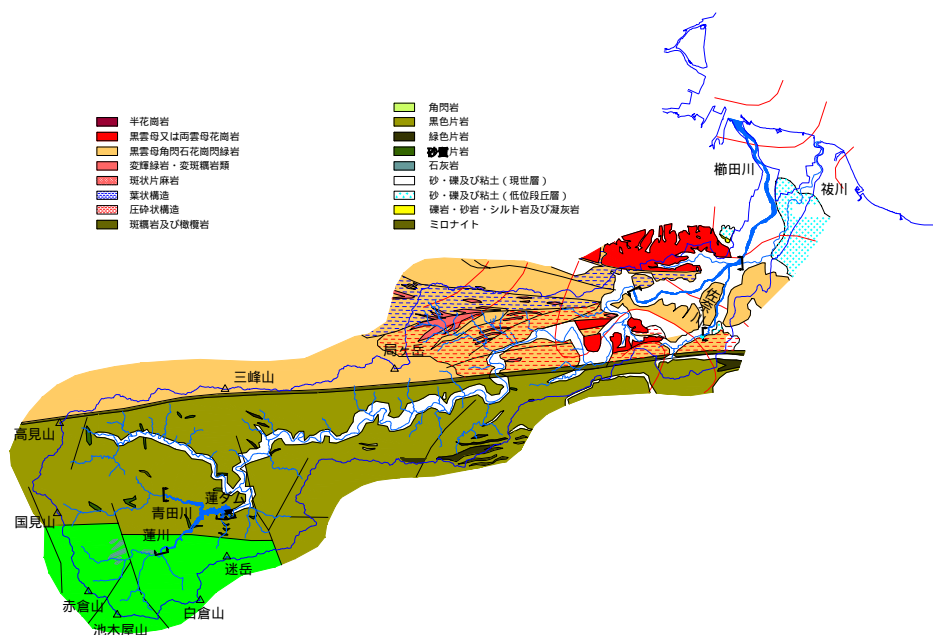
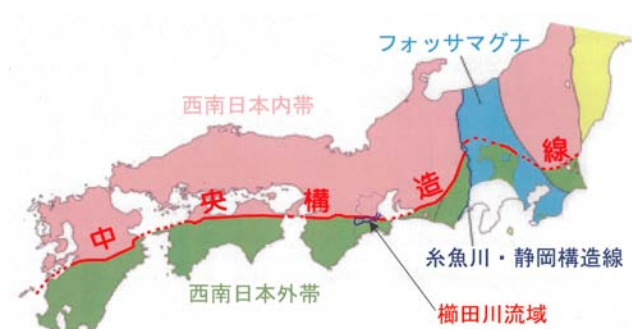


図 1 - 3 櫛田川流域地質図



中央構造線

九州から関東平野まで総延長1,000 kmを越えて、日本列島の西半分を縦に二分し東西に走る大断層。流域の地質構造などの学術的視点、あるいは、生物学的視点から重要な意味を持つ。



中央構造線

(飯高町^{つきで}月出の^{さと}里露頭)

櫛田川流域は中央構造線が走っており、月出の里でその代表的な露頭が見られる。

1 - 4 気候・気象

櫛田川は高見山から伊勢湾まで延長約87kmに及ぶものの流路に沿う左右の奥行きは短く、細長い羽状の流域形状である。これより流域の状況は、櫛田川本川上流狭窄部の山間部と櫛田川本川下流松阪市を中心とする平野部とに大別される。

櫛田川流域の、年平均気温は15 前後である。

櫛田川流域の平成元年から平成13年までの平均年降水量は、櫛田川本川上流の南部は、日本でも最多雨地帯である大台ヶ原に隣接しているため、約2,500mmを越える多雨地帯となっている。また、櫛田川本川中流部は約2,200mm、下流部は約2,000mmであり、何れも全国平均降水量の1,718mm（昭和46年～平成12年【平成14年版日本の水資源】）よりも多い。

本川に洪水を引き起こす豪雨は梅雨期と台風期に大別されるが、特に台風期の降水量が多くなっている。

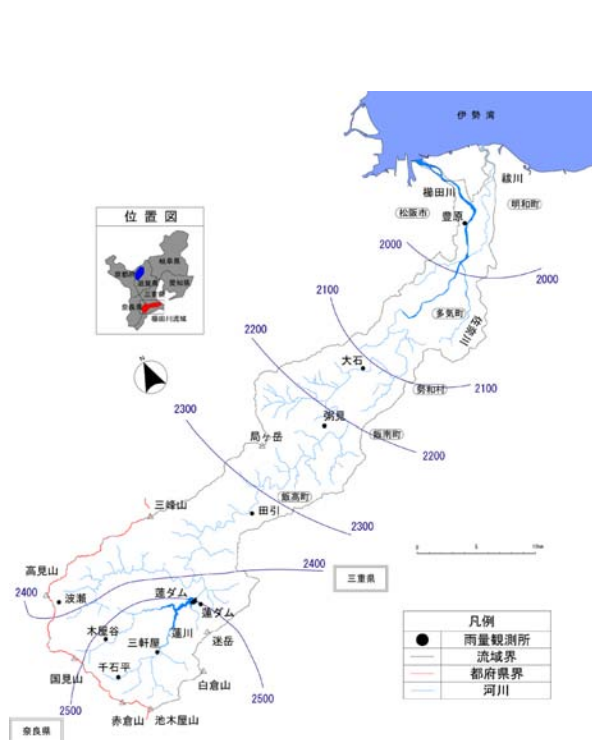


図1 - 5 年平均降水分布図
（H1～13平均；欠測年は除く）



図1 - 4 櫛田川流域と大台ヶ原

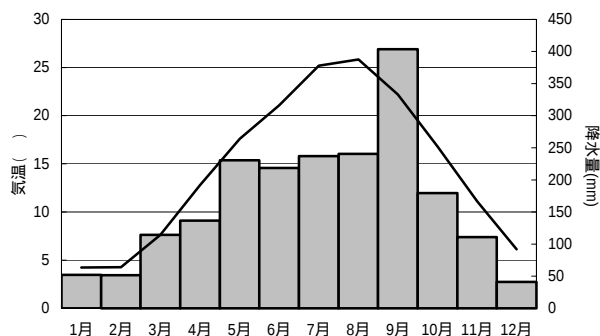


図1 - 6 月別平均気温・降水量
（粥見地点；H4～13平均）